



日本美容皮膚科学会
Japanese Society of Aesthetic Dermatology

第43回 日本美容皮膚科学会 総会・学術大会

ZO® SKIN HEALTH

ランチオンセミナー5

開催日時 2025年8月16日 ± 11:30~12:30

開催会場 D会場 (10F 会議室1004-1007)

Dr. ゼイン・オバジの スキンヘルス理論に基づく 肌の健康回復と維持



座長

野本 真由美 先生

野本真由美クリニック銀座 院長



演者

千葉 真美 先生

まみ皮膚科クリニック

臨床試験データから考える
「治療に最適な肌」の作り方



演者

山内 華子 先生

御所南はなこクリニック

ハイドロキノンによる
セラピューティックプログラムの
選択肢の拡大と適正使用の考察

Dr. ゼイン・オバジのスキンヘルス理論に基づく 肌の健康回復と維持

肌が本来もつ自己再生力を引き出し、潤いとハリに満ちた健やかな皮膚状態を実現するには、皮脂分泌の抑制とバリア機能の正常化、ターンオーバーの促進によって、細胞そのものを活性化させるアプローチが必要です。皮膚構造の再構築は一過性の治療ではなく、患者一人ひとりの生活背景、肌質、反応性を考慮した、段階的かつ持続的なケア設計が成功の鍵を握ります。

本セッションでは、Dr. オバジのスキンヘルス理論に基づき、治療前の肌環境を整えることが重要であり、成果の最大化と長期的な肌質改善に寄与することについて、臨床研究と実際の症例を通じて紹介します。

演題①

臨床試験データから考える「治療に最適な肌」のつくり方

千葉 真美 先生

ゼオスキンヘルスの基盤となるデイリースキンケアプログラム (GSR® + デイリー PD) は、皮脂バランスの調整とバリア機能の正常化を目的としており、スキンヘルス理論の実践において不可欠なステップです。本演題では、日本人30例を対象に8週間実施した使用試験の結果を初めて報告します。評価には皮膚科専門医による視診評価、VISIA による画像解析に加え、角層水分量、経皮水分蒸散量 (TEWL)、皮膚色、皮脂量などの測定データを用い、スキンケア効果を多面的に検証しました。

演題②

ハイドロキノンによるセラピューティックプログラムの 選択肢の拡大と適正使用の考察

山内 華子 先生

肌の再構築を目的としたゼオスキンヘルスのセラピューティックプログラムでは、4%ハイドロキノン (HQ4%) 製品の使用が基本とされていますが、刺激反応を理由に治療継続が難しいケースもあります。この秋発売となる2%ハイドロキノン (HQ2%) 製剤により、より幅広い肌質・症状に対応したプログラム提供が可能となります。本演題では、HQ2%とHQ4%の使い分けについて臨床現場の知見をもとに紹介します。また、ハイドロキノンが一般的なスキンケアに浸透しつつある今、誤った使用による肌トラブルが増加する可能性を踏まえ、皮膚科医としての適切な対応法を提言します。